

## 平成26年度 第1回川崎市教育改革推進協議会学校教育専門部会（摘録）

日 時 : 平成26年9月3日（水）18:00～20:00

場 所 : 教育文化会館3階 第5会議室

出席者 : 高木委員、齊藤委員、山崎委員、宮津委員、巴委員、星氏(門倉委員代理)

(事務局) 小田嶋教育改革推進担当部長、高梨職員部長、芹澤学校教育部長、  
江間総合教育センター所長、渡辺指導課長、橋谷教育改革推進担当課長(共生・共育)  
田中教育改革推進担当課長(区教育・調整)、増田教育改革推進担当課長(高校改革)、  
小田桐教職員課長、山科指導課担当課長(支援教育企画・調整担当)、  
上杉指導課担当課長(支援学校担当)、栗山指導課担当課長(小中高等学校支援教育)、  
杉本健康教育課担当課長(学校体育・安全)、佐藤カリキュラムセンター室長、  
樋口情報・視聴覚センター室長、増田特別支援教育センター室長、  
尾立教育相談センター室長ほか

欠席者 : 伊藤委員

傍聴者 : なし

司 会 : 渡辺指導課長

協議題進行役 : 小田嶋教育改革推進担当部長

[配布資料]

資料 次期「かわさき教育プラン」の検討状況について

[次第]

1 開会

2 部会長あいさつ

(協議題)

3 次期「かわさき教育プラン」の検討状況について

・・・資料

・・・補足資料

### 協議題 次期「かわさき教育プラン」の検討状況について

#### 1 次期かわさき教育プランの構成及び計画期間

(企画課説明)

- 委員
- ・基本政策Ⅱの5に「特色ある高等学校教育の推進」とあるが、なぜここに位置付けているのか。1から4は各校種全体にかかるのに、5だけ高校について書いてあるとバランスがよくないのでは。現行プランでは、重点施策「地域の中の学校を創る」の中の事業に位置付けられていたが。
  - ・基本政策Ⅱの5の内容を読むとハードに関することが多い。定時制課程の再編等を想定しているなら、Ⅴ「学校の教育力を強化する」の重点事業とするのがよいと思う。
- 事務局
- ・次期プランでは、政策体系を再構築している。市民にわかりやすいように、8つの基本政策を掲げ、この高校の施策については、教育内容に関することとして、この8つの基

本政策の中では、Ⅱの「学ぶ意欲を育て、「生きる力」を伸ばす」に位置付けている。

- 委員 ・実施計画期間の年次は、説明を聞いて、市の総合計画と整合をとっているとわかった。まちづくり全体の中での教育の取組、教育プランという意識を持つためにも、実施計画の区切りが総合計画と合わせてあることを書くときよいのでは。

## 2 プランの基本理念及び基本目標

(企画課説明)

- 委員 ・10年先を見据えた課題の説明のあと、「また、」として、川崎市の強みが書かれているが、文章のつながりがわかりづらいので、表現を見直すとよい。

## 3 プランの基本政策

### I 人としての在り方生き方の軸をつくる

(教育改革推進担当(共生・共育)説明)

- 委員 ・現状と課題は、よくない部分が目立つが、キャリア在り方生き方教育の考え方からいっても、いいところを拾って伸ばしていくことが大切だと思う。
- 委員 ・自尊意識や将来に関する意識が全国と比べて低いなどとなっているが、改善傾向があり現行プランの成果とも言える。経年比較により改善した背景を分析するなどによって、これまでの取組をさらに強固とするような書き方をしてほしい。
- 委員 ・不登校や引きこもりは社会問題といえる。卒業後の就労を考えると、小さいうちからこのような自立に向けた教育をすることは、重要である。
- 委員 ・これまで特別支援教育に関わってきた経験からすると、よくぞこれを第1の政策に取り上げてくれたという気持ち。これまで特別支援教育の中で大事にしてきたことを取り上げてくれているように感じる。学校の中でも、教職員で共有していきたい。
- 委員 ・若者のつまづきを少なくするためにも、うまくいかなかったときのそこからどうしたらいいのかということについて、キャリア教育の中で、学んでおくことが大事である。

### Ⅱ 学ぶ意欲を育て、「生きる力」を伸ばす

(指導課、カリキュラムセンター説明)

- 委員 ・全国学力・学習状況調査は、活用の仕方を誤ると、間違った学力観を生む等のおそれがある。情報発信の仕方も含め気をつけてほしい。
- 委員 ・市独自の学習状況調査をもっと活用してもよいのではないかと。
- 委員 ・公教育として、学習機会の均等、100%の子がわかる状況を基本的には目指していくべきである。
- 委員 ・子どもたちが窮屈に感じないように進めてほしい。
- 委員 ・現状と課題の学力に関する記述は、補足資料の記述と表現が合っていないようだ。また、グラフや成果指標の表記の仕方や比べ方にバラつきがある。全体の表現の整合をとってほしい。
- 委員 ・授業がわかる、どちらかといえばわかる子どもが8割いるが、家で自分で計画を立てて勉強している、どちらかといえばしている子どもは、その半分くらいとなっている。塾に通っているからそうなっているのかは、わからないが、塾に通っている子どもばかりではないので、しっかりとした学習習慣をつけてもらいたい。

### Ⅲ 一人ひとりの教育的ニーズに対応する

(指導課(小中高等学校支援教育)説明)

- 委員 ・「障害者の権利に関する条例」の批准についても触れられている。インクルーシブ教育の記述を入れるべきではないか。
- 事務局 ・策定中の特別支援の個別計画の中に記述していく予定。
- 委員 ・すべての教員が手にする教育プランにインクルーシブ教育システムに関する記述を入れた方がよい。
- 委員 ・現状と課題の「高等学校に在籍する発達障害のある生徒については、・・・」や「就学援助の認定者数及び認定率が増加傾向にあることなど、・・・」の記述は表現が適切ではないように感じる。
- ・成果指標の「支援の必要な児童の課題改善率」についてはわかりにくいので、説明を入れた方がよい。

### Ⅳ 良好な教育環境を整備する

(健康教育課(学校体育・安全)説明)

- 委員 ・学校安全は、学校にとって大事な要素。保護者や地域からの要望も高い。もう少ししっかりと書いてもよいのではないか。基本政策の名称も「良好な」ではなく、「安全・安心な」でもよい。
- 委員 ・小学校1、3年生を対象に自転車走行の交通安全教室を開催しているようだが、交通事故の危険は小学生だけではなく、中高生は事故率が高いので、中高生にも交通安全教室を行ってほしい。

### Ⅴ 学校の教育力を強化する

(教育改革推進担当課長(区教育・調整)説明)

- 委員 ・昨今、教職員一人ひとりの資質向上とともに、組織としての力、「チーム力」の向上が特に大事になっている。「チーム力」向上という視点で取組をぜひ検討してほしい。
- 委員 ・小学校の教職員採用試験の倍率のグラフがあるが、本文で触れられていないので、掲載の意味を読み取りづらい。中学校も載せるとよい。
- 事務局 ・人間的魅力を備え、資質の高い教職員を確保するために、多くの受験者に受験してもらえるように、採用試験の広報の充実や試験方法等を改善してきている。

## 4 策定スケジュール

(企画課説明)

意見なし